

幸

Free!unofficial fanbook16
Makoto*Haruka

R18

福

な

悪

夢



遠い昔
一座が立ち寄った街で
あいつに出会った

もう
その街の名前も
忘れてしまった
けれど

ハルちゃんの目

青くて
キラキラしてて
とっても
きれい

まるで宝石
みたいだね！



そう言った
彼の瞳も

まるで
エメラルドのように
美しく輝いていた――

幸福な悪夢





また…良い水脈が
見つからなかった

いっそ
旅を辞めて
街でちゃんと
仕事を探るか

いや…
でも…

俺が入っていた
行商の一座が無くなり
もう十年以上経つ

一座は
砂漠で盗賊に襲われ
散り散りになった

俺はかろうじて
逃げ切り、それから
似たような集団に
混ざっては
仕事を手伝い
暮らしてきたけど

最近はそれも辞め
一人で行動している
ことが多い

その方が
動きやすいし
： 煩わしくもない

：でもそうして
生きていく為には
綺麗事だけでは
済まなくて：

そういえば
この街

初めて
来たのに
どこか
見覚えが
あるような：

占いか





断る

仕事に関係
ないだろう

うちの
手伝いをする者は
全員顔を確認する
決まりがあるんでね

できないなら
別の奴に頼むしか
ないが…



はあ…



ほう
これは…

…ありがと



お前に頼んで
よかったよ

…何だ…？

湿った
石の感触が
気持ち悪い…

手と…首も
痛くて…
動かない…？

耳障りな
人の声——…

さあ本日の
目玉商品！

彫刻で造られたような
美しく整った顔

絹のように
きめ細かく
滑らかな肌

瑞々しく
豊かな黒髪に

程よく引き締まった
良い体をしています！

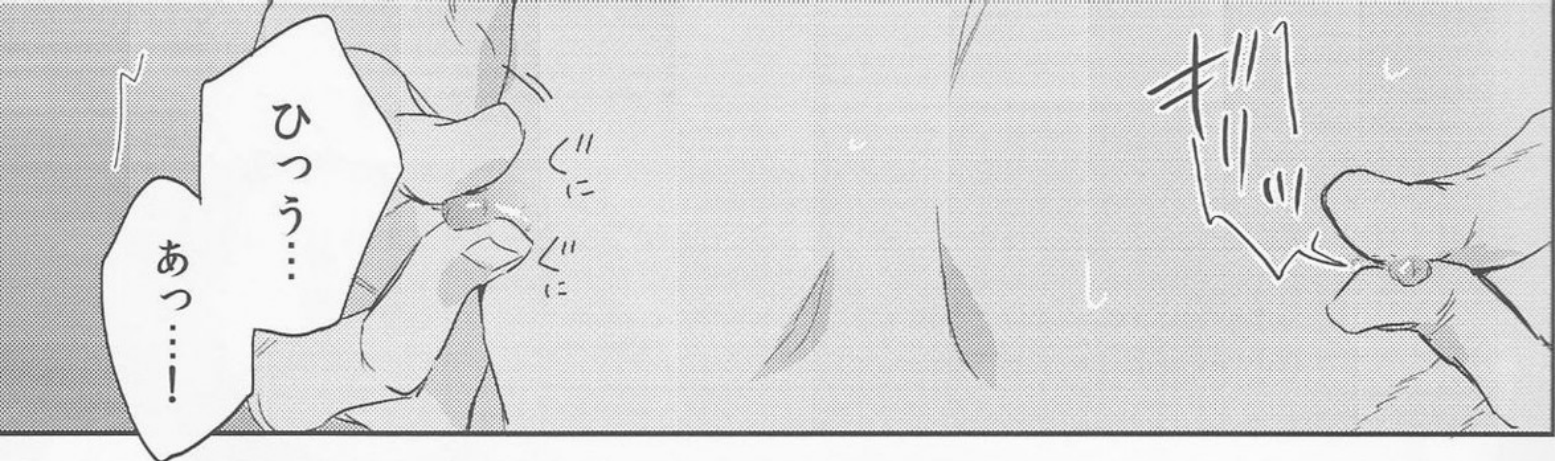
ザッ

ザッ

ザッ













なっ…

…この人は
俺の身内です

懐かしい…
匂い…

…あ



てめえ…っ

よせ
奴に逆らうな



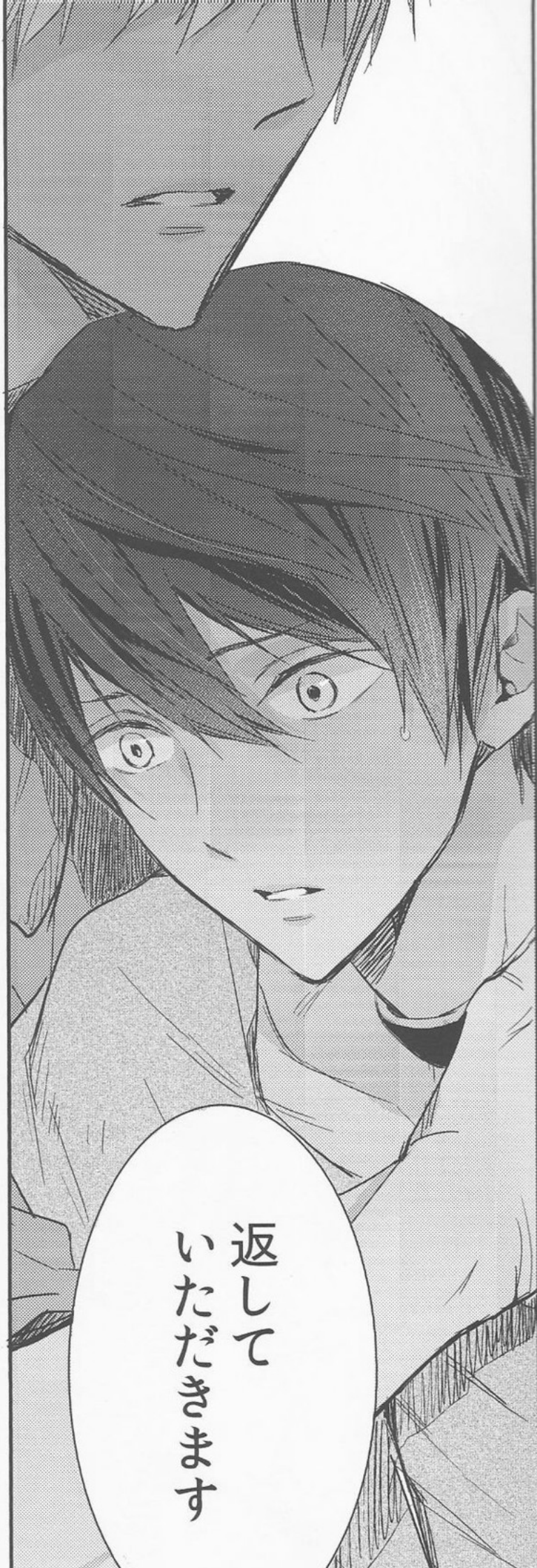
…ごめんね
ハルちゃん

…これも
夢なんだろうか

俺が
もつと早く
来ていたら…

昔より
低くなっているけど
優しく包み込むような声

この
呼び方は



返して
いただきます

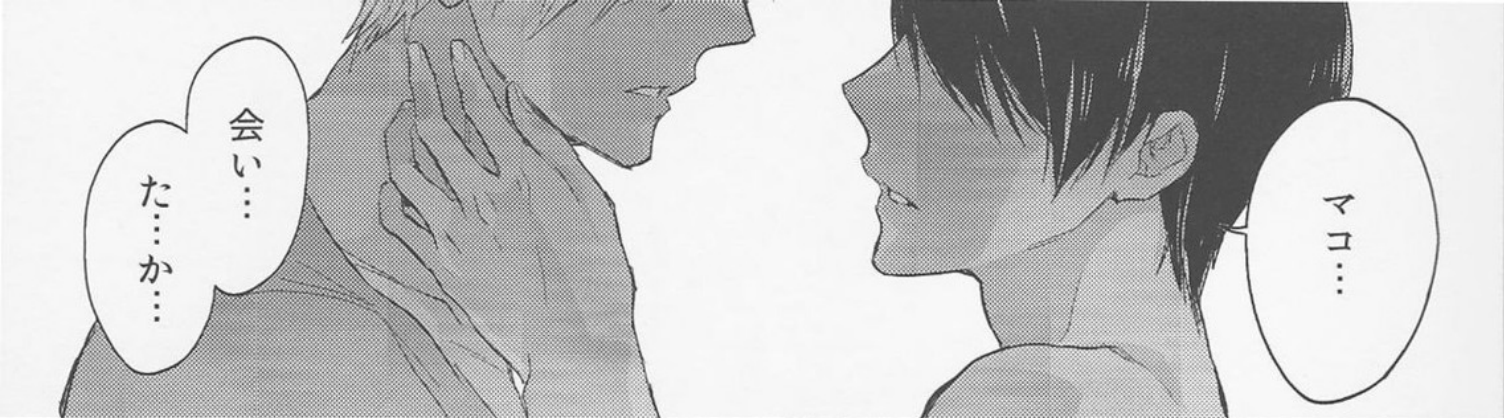
マコ……ト……

覚えて
くれてたの……？

嬉しい
……

変わらない……
エメラルドの瞳——





幼い頃の
いつもの夢

親とは死に別れて
しまったけれど
その友人の一座の中で
平和に過ごしていた
日々

夢を見た

旅先の街に
滞在していた
とき

人の良さそうな
顔をした子供と
俺は毎日のように
会っていた

ハルちゃん！

えへへ

ハルちゃん
だいすき！

マコト

俺も――

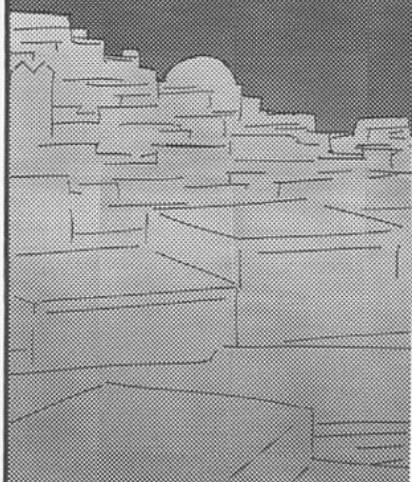
俺達は
昔から知り合い
だったみたい
に仲が良くて

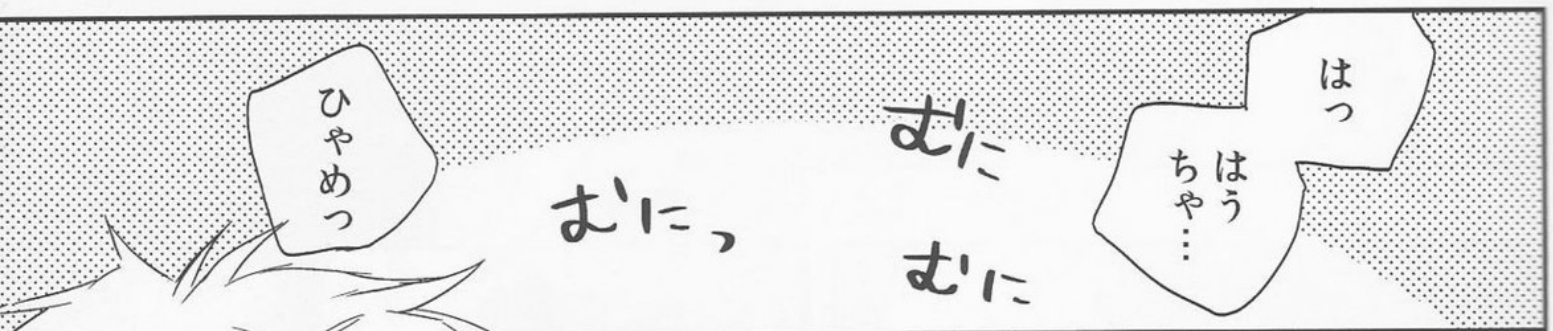
おうちから
くだもの
持つて
きちゃった

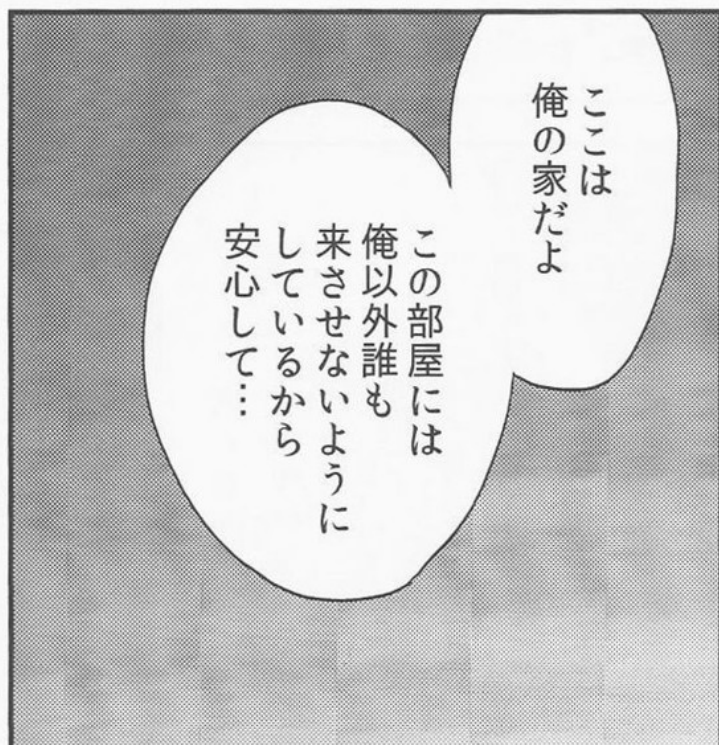
ないしょ
だよ！

ああ

あ……
ありがと……







何て心地
良いんだろう

十年以上
会っていなかったのに
その腕も息づかいも
肌になじむ

離れていたことの方が
おかしかった
みたい……

……ばちが
当たったんだ

体を売ることは
しなかったけど

色々なことに
手を染めてきた

運び屋や詐欺
盗みだって

だから……

……でも
会えたよ

俺は
ハルちゃんと会えて
嬉しいよ

生きるために
したことだろうか？

ハルちゃんは
何も悪くない

それに…
俺だって
汚い仕事を
している

え…

病死した俺の親は
表の店とは
別の仕事にも
手を出していた

俺はそれを
引き継いだ
そうしないと
ここではやって
いけなかったんだ

頼れる人も
いなかったし
ね…

……

マコトも…

一人
だったのか…

血の気が
引いた

会えたという
喜びと

絶望とで
どうにかなりそう
だった

だから
あの人売りの
場所のことも
知っていた

付き合いで
連れて
こられたんだ

ハルカの体を
触った奴も
見た奴も

全員殺して
しまいたかった……!!

マコト……

マコトが
来てくれたから
助かったんだ

でもっ……

もういいんだ
お前の言う通り
こうして会えた

マコト……



マコトの様子に
微かな違和感を
覚えたけれど

抱きしめられた
ぬくもりに安心して
俺はまたすぐに
眠ってしまった



マコトは表では
骨董品店を
営んでいる

数人の
召し使だけを
雇っているが

店構えは
昔見たときより
ずいぶん大きく
なっているように
感じた



混ざりもの
です

これでは
話にならない



お引き取り
ください

し、しかし
マコトさん





聞こえなかった
ですか？

お引き取り
ください



今回のことは
大目に見て
おきます

でも次やれば
どうなるか…
わかっていますね



あ…



もう
ハルちゃんっ
またそんな
恰好で！

とっ
かっ



だから
ちゃん付けは
やめろって

ごめん
ごめん



マコト...



新しい花も
綺麗だね！

ハルが来てから
庭が
華やかになって
嬉しいよ

前は
この池も
枯れていた
もんな...



だから離れたところに
餌を撒いてるんだけど
うまくいなくて...

餌を
他の奴の分まで
食おうとする

こいつは
ちよつと
欲張りなんだ





ごめん
つい

み、
見るなよ



かあぁ...

.....
っ



ハル
俺今

すごく
幸せだよ



ハルが側にいて
一緒に話したり
ご飯食べたり...

ハルとの
昔の思い出が
俺の中で一番
大切なこと
だったから
夢みたいなんだ



本当？

嬉しいな



...ああ...

俺も...

夢にまで
見た日々

こんなに
穏やかな
気持ちに
なつたのは

何年ぶり
だろう……

あつ

これ……
塩じゃなくて
砂糖だ……!!

そういえば
昔もよく
ドジやつた
よな、マコト

む、昔よりは
ましになった
つもりだよ

あ……
そう……
ハル……

言おうと
思ってたん
だけどさ

ハル、プール
欲しくない？

え…

ハル専用の
プール！

昔から
水に浸かったり
泳いだりするの
好きだったろ？

丁度地下に
部屋が空いているんだ
今のお風呂じゃ
泳げないし

でも…
水だつて
集めるの
大変だし

俺一人が
使うなんて…

それに…

ずっと
マコトの世話に
なるわけには…

…ああ

…ありがとう

遠慮
しないで

俺もハ
泳ぐ姿
見たい

マコトは
眠れないとき
俺の部屋に
やってきた

ただ俺を
抱きしめながら
過ごすだけだ

俺がいなく
なるんじゃないか
不安で怖くて
眠れなくなるのだと
いう

それが
「昔の思い出」への
執着なのか

…それとも別の
何かなのか

俺には
わからなかった
けど

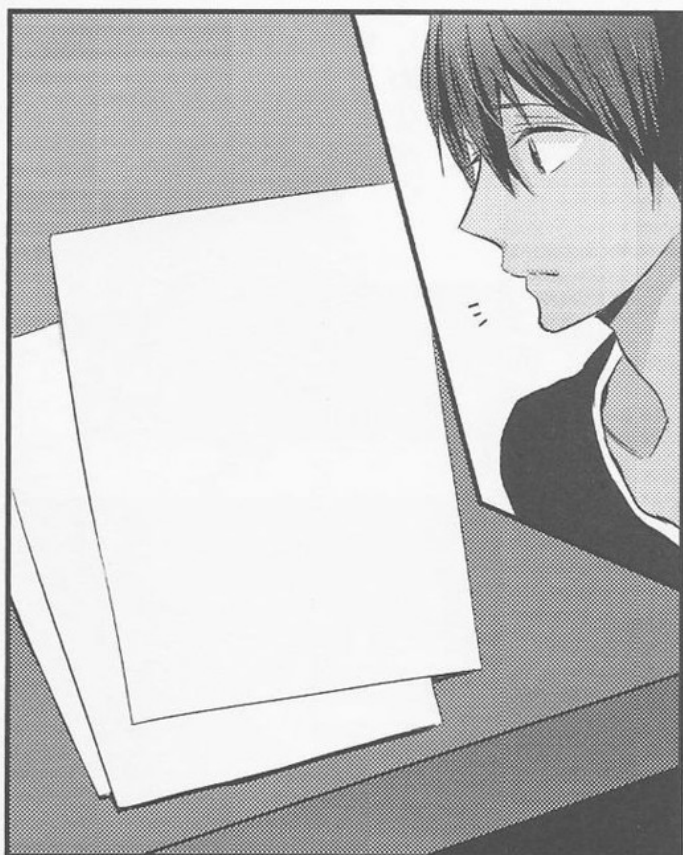
わからないまま
受け入れてる
俺も

よくない
よな…

…よし

マコトが
気に入って
くれた
スーパ

今日が一番
うまくできた
かも







いつ…

おいつ…

マコト



タタタタ



あんなこと
された後で
ハルを狙っている
奴がいるかも
しれないのに

さらわれたら
どうするんだよ



外には出るなと
言っただけだ！

あの人売りの場で
売られた者たちが
どうなるか
知っているのか！？

散々飛ばれて
最後は皆
おぞましい死に方
している…！！

ハルもそんな目に
会いたいの！？





いいんだ
マコト

俺が
悪かった...

ちが...



違うんだ
...



ごめん...

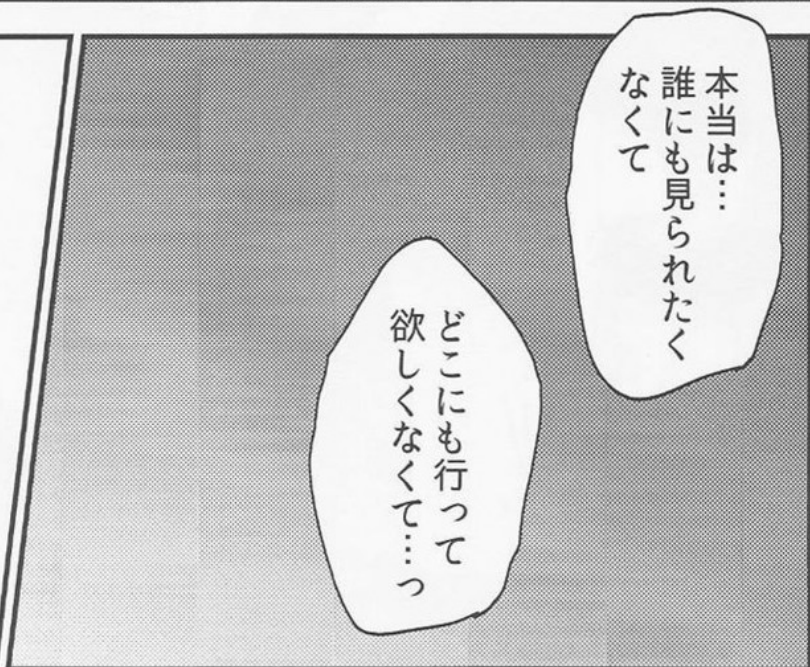
ごめん
ハル...

俺...ハルに
なんてこと...



汚いことしてる
仕事場も

ハルまで
穢れてしまう
ような気がして



本当は...
誰にも見られたく
なくて

どこにも行って
欲しくなくて...

全部俺の
独りよがり
なんだ…

「側にいて欲しい」
なんて

たった一言
言うのも
怖がつて

気持ち
押し殺して

マコト

…は…

…

俺もお前も

昔よりずっと
幼くなつて
しまつたんじゃないか

俺はいなく
ならない

マコトが望むなら
ずっとここに

俺は

マコト

好きだ

…俺だつて…つ

お前を誰にも
渡したくない





ハル…

ハルちゃん…

俺は…

出会った頃から
ずっと

ハルちゃんの
ものだよ…

…あ…っ







ハルカ…っ



あーあーッ

かー

かー

かー

プリン

プリン



好き…っ

ふあっ

あ…ん

プリン

好きだ…
ハルカ…っ

プリン

プリン

プリン



ずっと一緒に
いて…

それからー

毎朝毎晩

時間さえあれば
抱き合った

今までの分を
埋めるかのように

飽きるー
求め合っ

それでもまだ

満たされる
ことはなくて

…マコトは

シヤチ
みたいだな

え…？

海の中で
一番強い
生き物の
ことだ

俺も
一度しか
見たこと
ないけど

荒々しい
泳ぎで

獲物を狙い
捕食する…

もう…っ

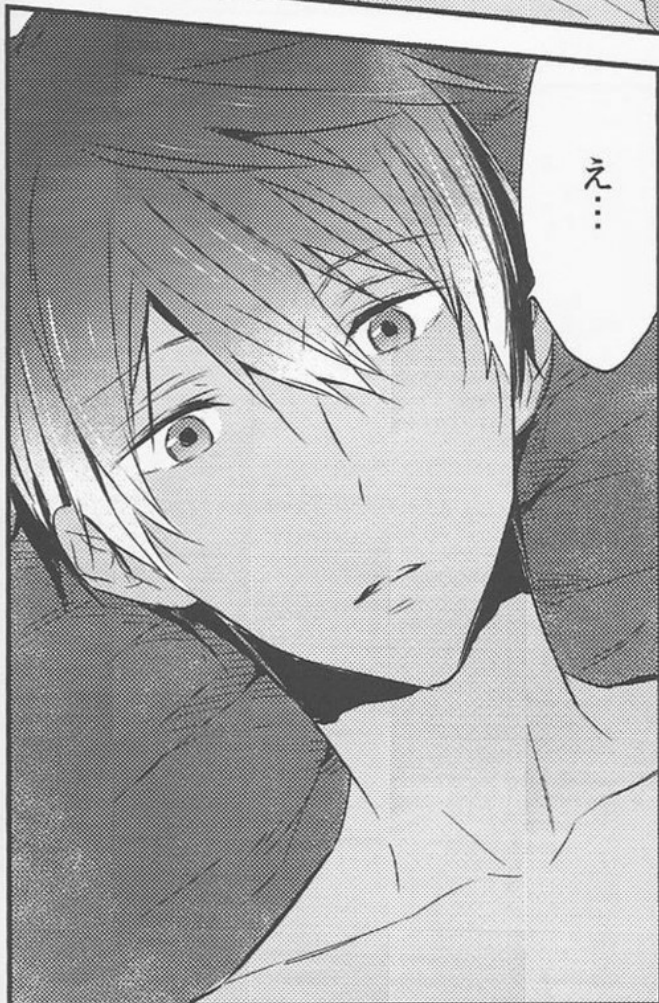
煽るの
禁止！

獲物って
ハルのこと？

それって
褒められてるの
かなあ…

…褒めてる

…



この街
出たこ
ないか

うん

見
ない

海…

俺も…
見てみたいな
…海

え…

ん…

マコトなら
いくらでも
行けただろう

うん…でも…

あ…

仕事で
無理だった
のか

…ううん

ハルを…
待っていた
から…



約束
しただろ

あのとき

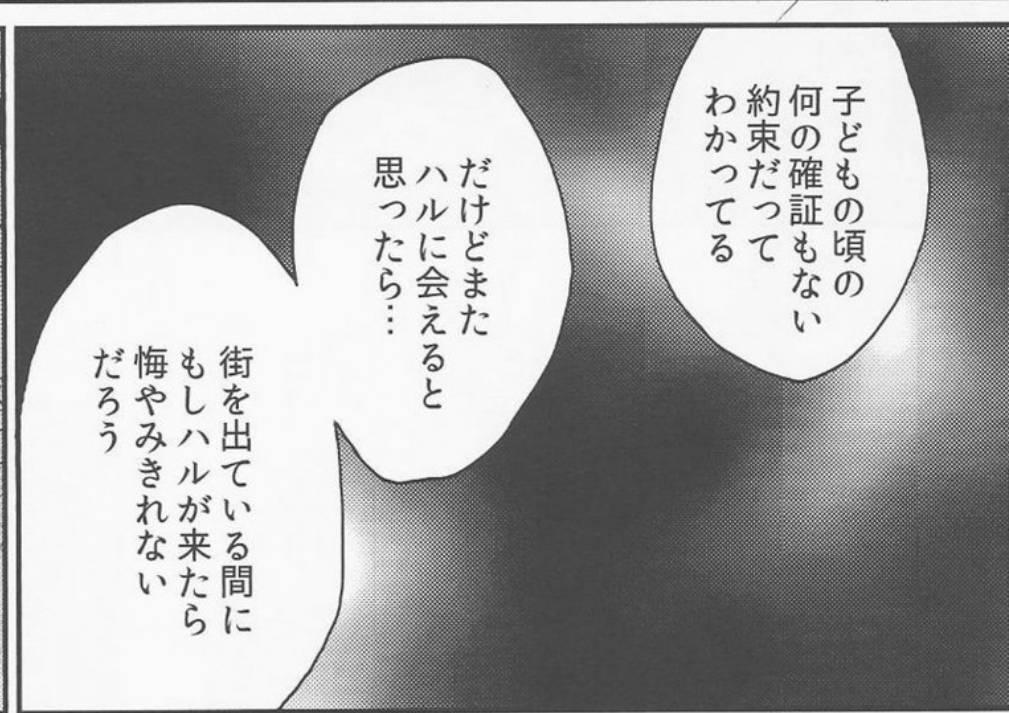
また
遊ぼうな

うん…
きつと…



だから
こんな街にも
ずっといた

…いることが
できた



子どもの頃の
何の確証もない
約束だって
わかってる

だけどまた
ハルに会えると
思ったら…

街を出ている間に
もしハルが来たら
悔やみきれない
だろう



会えない間も

ハルは俺を
救ってくれて
いた…



ばか…

縛っていたの
間違いだろう…



俺…将来

水脈を見つける
仕事がしたい

いつかきれいで
でっかい水脈を
見つけて
お金持ちになって
たくさん泳ぐんだ

ほんと!?
すごい
ハルちゃ



そんなこと
ないよ!

俺も…

お前との
約束があったから…

ハルとの
約束があったから
親が死んでも
立ち直ることが
できた

だから…



そのときは
僕も一緒に
泳がせて！

約束
だよ！

…子どもじみた
馬鹿な夢だ

それにこの街の
名前も場所も
忘れてしまった
のに

お互いに
縛り合って

そして



救われた…



海……

一緒に
行きたいな……

うん…

海は…丁度
俺の目の色に
似ていると思う

深い青で…時には
空と境目が
わからなくなるんだ

…様

マコト様

あの…
お客様が
お待ちですが…

ああ…
今行く

どういう
ことだ！

もう
取引は
できない
だと!?

今更何を
言っている！

…申し訳
あります

今まであなたには
お世話に
なりましたが

もう俺には
裏の仕事は
できません

…あいつの
せいかな？

あの奴隷を
買ってから
お前はおかしく
なった

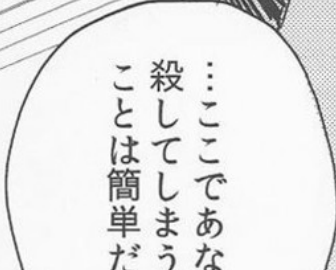
何を
たらし込まれ
たのか知らんが

ここらで
恐れられていたお前が
そんな腑抜けに
なっちまうとはな

よつぽど具合が
良かったのか？

俺にも
分けてくれよ

そうしたら
許してやる



でも
しない

ハルがきつと
悲しむから

俺は
変わるんだ

ハルと一緒に
生きる為に

ハル――

マコト
大丈夫か!?

マコト!

ガキが…
ふざけた
ことを…っ



マコト……!!

ハルの声が

だんだん
遠くなっていく……

ハル

行かないで

ハル

おい

ひい

こつちだ

きみはだれ？

ぼくたち何で
こんなところに
いるのかな

いいから歩け
お前を待つてる
奴がいる

僕を待つて
くれる人なんて

いないよ…

いるだろう

忘れたのか？

だって…
両親も死んで
しまったし

周りは俺から店を
横取りしようと
してくる

寄ってくる
俺じゃなく
店やお金
目当てなん

だから

今度は俺が
待つ番

もうすぐ
出口だ

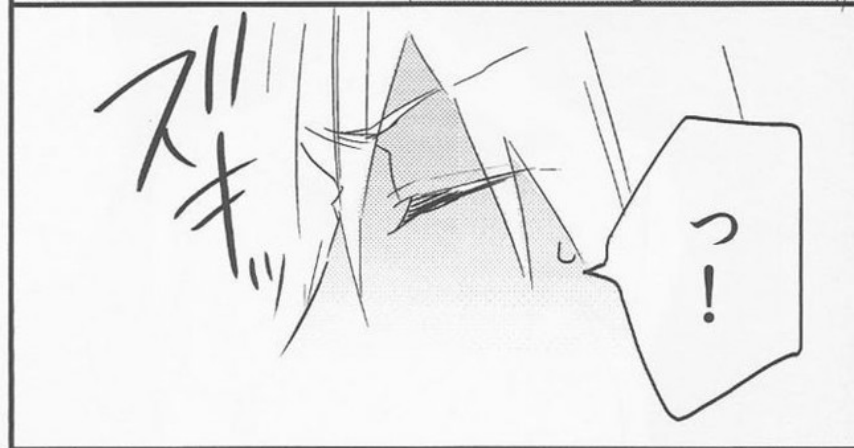
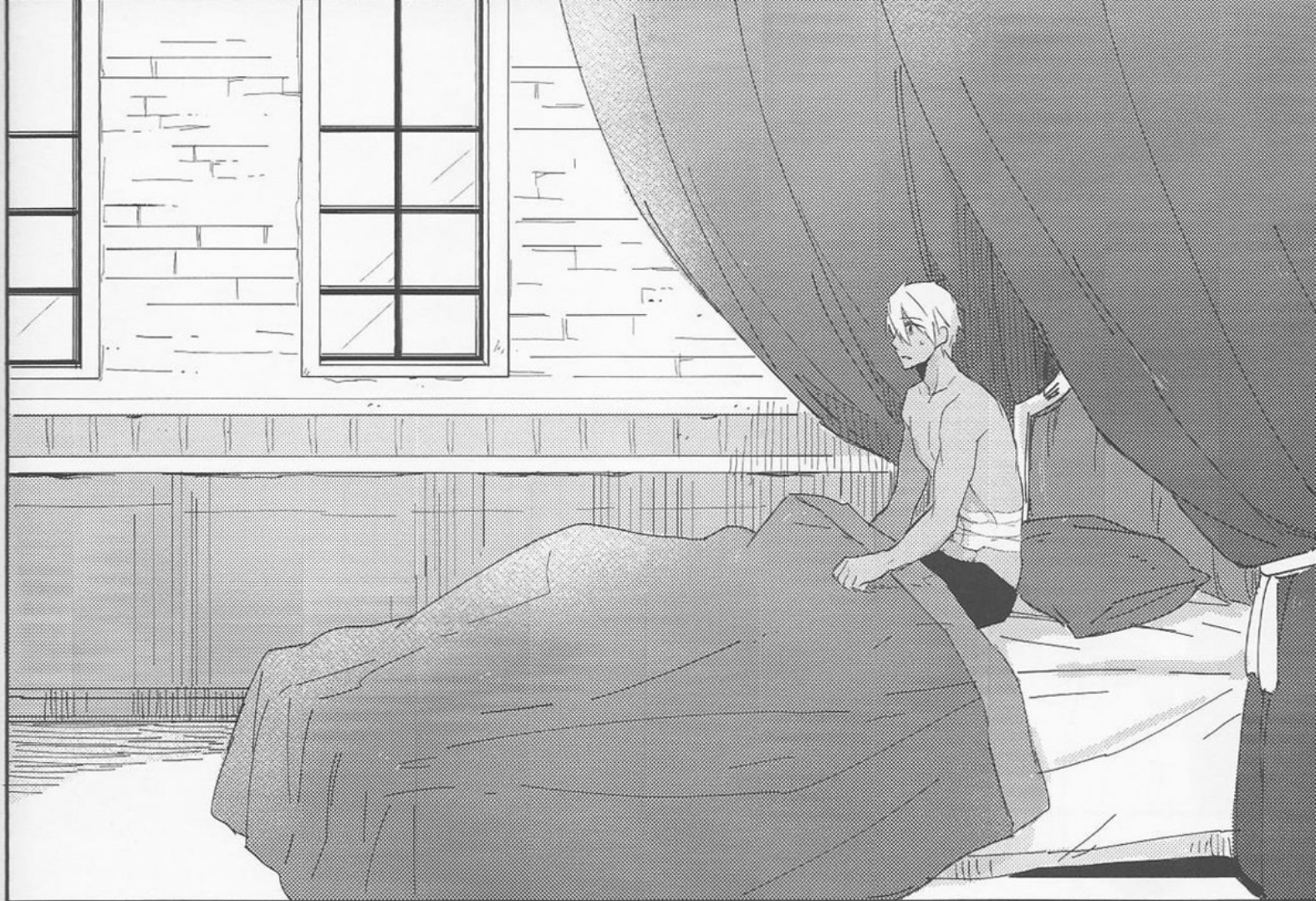
誰も
信じられなかった

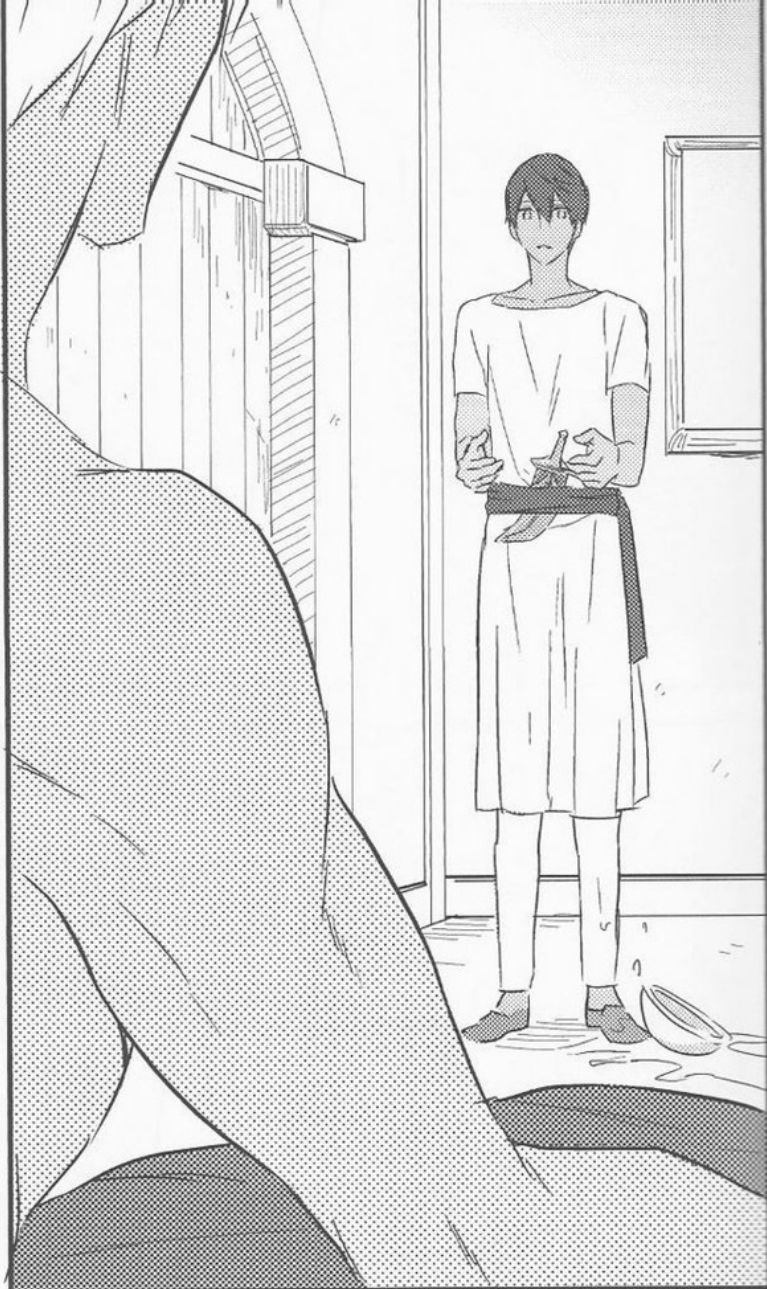
だから俺は…

それでも
俺を待っていて
くれたんだろう？

待っているぞ
…マコト

…ハル…





マコト…

ごめんね…

—あの後奴らを
追い出してから
ずっとお前を
看病してた

待っていてくれて

ありがとう…

表の店は
この者たちが
何とかしてくれて
いるけど

奴らがまた
乗り込んで
くるのも
時間の問題
だろう

マコト……!

ハル…

：ハルが俺を
守ってくれたん
だね

大変
だったろう…

そんな…

マコトが刺された
俺のせいだし…



違うよ

ハルのせいじゃない



…マコトが
刺された時

目の前が
真っ暗に
なった



…もう
あんな思い
するのは
嫌だ…！



もう二度と
いなくならないで
くれ

側に
いてくれ…



愛してる

愛してるんだ
マコト…

ハル…っ



うん

愛してる

俺も……

マコトは
店も財産も
捨て

俺達は
わずかな荷物
だけを手
街を出る
ことにした

遠い
東の国に

海に囲まれ
水も豊かな国がある
どこかで聞いたんだ

長くて辛い
旅になるかも
しれない

それでも
大丈夫？

ああ

マコトと
一緒なら
どこまでも
行く

あ…

ほらハル

もうすぐ
夜が明ける

う…

今すぐ
抱きしめたい…

…また
後でな

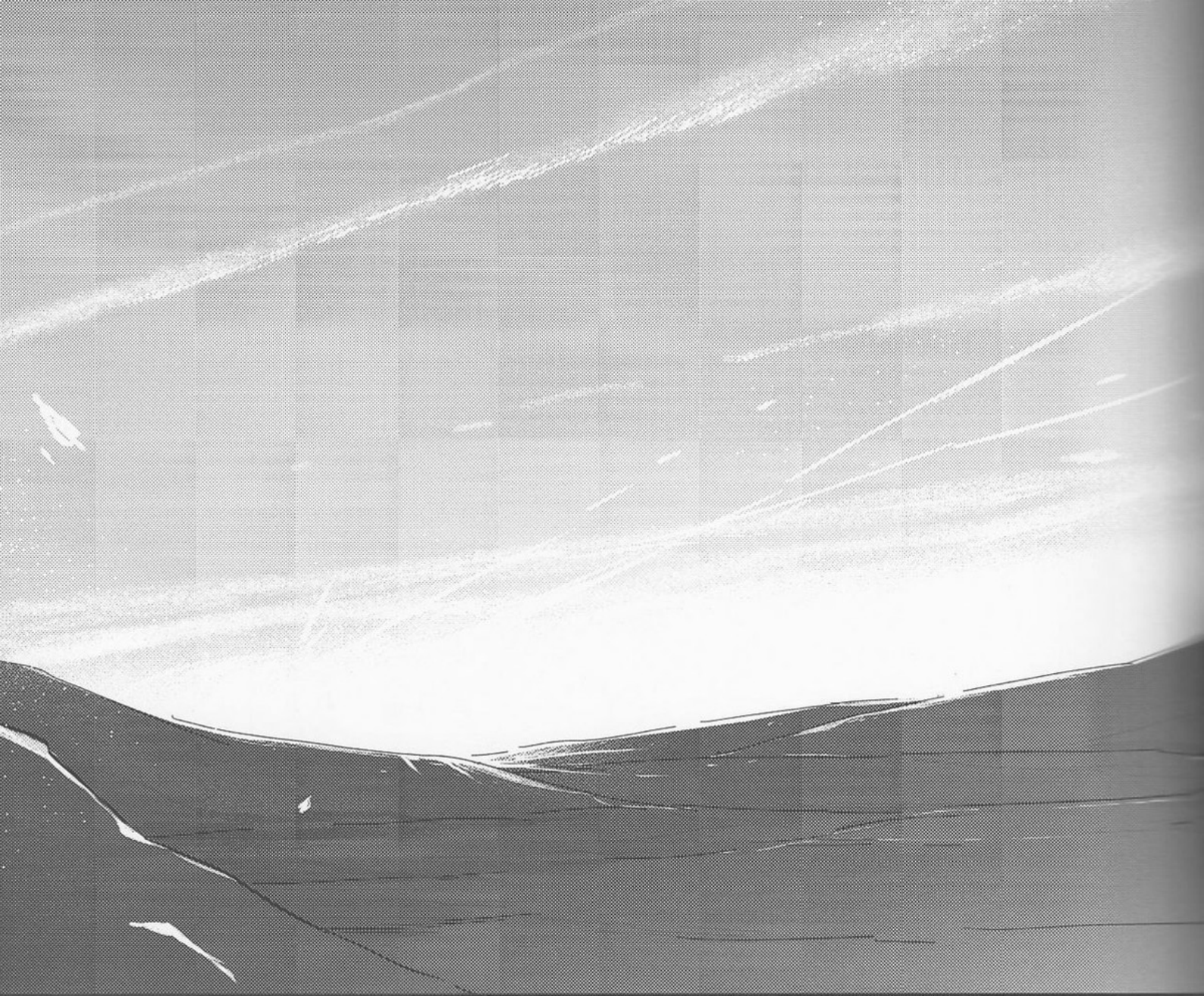


これから

：悪夢は
終わりだ

2人で道を
探して
行くんだね

ハル



朝焼けに
照らされて

マコトの瞳は
金色に
輝いていた

ああ…



きっと今
俺の瞳も

同じ色に
染まっている
だろう

マコトに
縛られるの

嫌いじゃなかった
けどな

もうハル
またそういうこと
言って……

襲いたく
なっちゃう
だろ！

また
後でな



お疲れ様でした！

アラブパロ初めて描きましたが

褐色な二人が描けてよかったです…。

あまり意味ないかもしれませんが少し補足をする

- ・ハルカは剣技が得意で油断していなければ強い
- ・集団行動を辞めたのは、ハルカが容姿端麗で大勢でいるとすぐ色恋沙汰に巻き込まれて、それが面倒だったからという理由もある
- ・一座を盗賊に襲われたショックでそれ以前の記憶があまりない（マコトとの思い出は覚えている）
- ・マコトは頭が良くて、街の有力者に手を貸したりして裏表どちらの人たちからも一目置かれていた

という感じです。マコトを刺したモブは制裁されていると思います。

色々とぼんやりしている部分がありますがご想像にお任せいたします…！

またいつか別の設定でもアラブパロ描けたらなあと思います～！

発行日：20150815

発行：Sneeze

発行者：くぶ pixiv///6200786

E-mail///tajiamudo@yahoo.co.jp

印刷：西村膳写堂様

禁無断転載・複製・ネットオークション出品

スペシャルサンクス
わためたさま…!!



